MRI ECONOMIC REVIEW

株式会社三菱総合研究所
政策・経済研究センター

米大統領選の行方(2) 最後は選挙人が投票

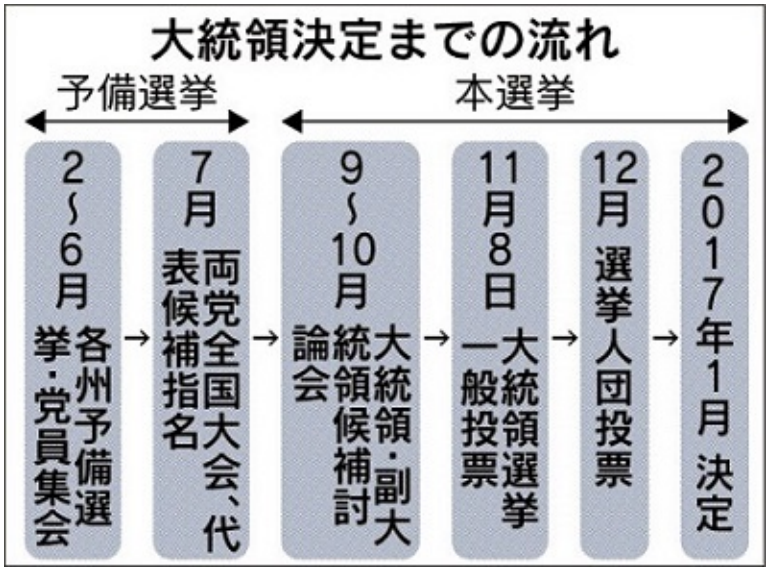
現在、各州で行われているのが、二大政党の予備選挙と党員集会だ。支持者の投票で各党の代表候補を推す「代議員」が選ばれる。多くの州で代議員の議席は得票数に応じて候補者に配分される。ただし共和党は勝利した候補が全ての代議員を獲得する「総取り方式」が今後は中心となる。

10 以上の州・地域の予備選・党員集会が集中した 3 月 1 日の「スーパーチューズデー」ではクリントン氏とトランプ氏が頭一つ抜け出した。3 月中に代表選びが決着する年も多い。だが、2008 年のオバマ氏対クリントン氏の民主党代表争いは 6 月までずれ込んだ。

7 月後半に両党全国大会の代議員投票がある。ここで大統領・副大統領候補が正式に決まり、ようやく本選が始まる。秋の公開討論会のテレビ中継は本選の見どころだ。両党勢力が拮抗するフロリダ州など、どちらが優勢かはっきりしない「スイング・ステート」でのキャンペーンの成否も、選挙に大きく影響する。

11 月 8 日、一般有権者が投票する一般投票が行われる。ただ、大統領候補に直接票を投じるわけではなく、最終的に大統領を選ぶ「選挙人」538 人が投票対象となる。州ごとの選挙人定員は各州議員数と同数とされ、一部の州を除き総取り方式だ。選挙人投票は 12 月だが、一般投票で大統領選は事実上決着する。

08 年のオバマ氏以降、ソーシャルメディアの活用も日常化した。民主党のクリントン氏も積極的にツイッターなどを活用。同党で対抗するサンダース氏もサイモン＆ガーファンクルを CM で起用するなど、メディア戦略も重要となっている。



※本コラムは、日本経済新聞の「ゼミナール」に 2016 年 3 月 4 日から 17 日まで 10 回にわたり掲載されたものです。

内容の全部または一部を無断で複写・転載することは禁止されています。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.